



日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号(DC会館)

電話 (鉄電) 千葉2935・2939番
(公) 043(222)7207番
FAX 043(224)7197番

2000.9.13 No. 5194

関書記長を不当配転

津田沼支部破壊攻撃を許すな!

9月1日付で、津田沼支部関書記長が幕張電車区に強制配転された。津田沼支部の弱体化以外に何ひとつ合理的な理由のない配転だ。断じて許すことはできない。

タライ回しの末に

関書記長は、56年度予科採用で、運転士の資格を取得しながら未だ運転士への発令を拒否され、そればかりか国鉄分割・民営化の過程で強制配転され、10年以上もミルクスタンドや無人駅の特別改札等をタライ回しするという不当きわまりない攻撃を受け続けてきた。

そして、ようやく1年9ヵ月ばかり前に、無人駅の廃止にもなつて元職であつた習志野電車区の車両係にもどつたばかりで、やつと交番検査をひと回りしたばかりだ。にも係わらずまたも配転するというのだ。いやがら以外の何もでもない。

全く答えられず

本部は直ちに申し入れを行い、8月31日に団交が行われたが、千葉支社は言を左右にするばかりで、明確な理由を述べることもできない。支社の回答は、「検修区の需給調整」を目的として、次の二点を人選の基準にしたというものであつた。

① 習志野電車区の構内・仕業・交番等の各担当を検討したが、交番検査から幕張電車区へ異動を行うことを判断した。

② 50歳以上、55歳以上の社員の比率が非常に高いという幕張電車区の年令構成の歪みを考え、今後の核になつてもらえるよう

な年令ということ判断した。

回答は矛盾だらけ

だが一見して明らかとおおり、これは何ひとつ理由になつていない。百歩譲つてこの二つを「基準」としても、関書記長でなければいけない理由は全くないのだ。

しかもこの間支社は、「基本的な基準としては在職年数が永い者から異動を行うこととし、その他の条件も含め総合的に判断する」と主張し続けてきたのだ。関書記長は、先に述べたとおり、習電に戻つてから二年にも満たず、本来異動の対象になるはずもない。

この点についても支社は、「たしかに従来からそう主張してきたし、今後も在職年数を異動にあつたの材料としていくことに違はないが、……」と言いつつ、あとは口ごもつてしまつたばかりであつた。

さらに、幕張電車区は年令構成が歪んでいるなどというが、幕張電車区が動労千葉と国労の組合員だけだつたために、新規採用者も全く入れようとせず、歪むに任せてきたのは千葉支社に他ならない。そのように言うのなら、平成採用者をこそ幕張に送るべきなのだ。

組織破壊を許すな

この間津田沼支部には、業務移管をはじめ、徹底した組織破壊攻撃が仕掛けられてきた。動労千葉の組合員の殆どが配転されたのである。今回の不当配転もそうした攻撃の一貫として行われたことは明らかだ。われわれはこんなやり方を許すことはできない。

自衛隊「治安出動訓練」に怒りの声

(9/3 東京)



九月三日、石原東京都知事の進める陸海空自衛隊七一〇〇名動員の「東京都総合防災訓練」が多くの反対を押し切つて強行された。銀座をはじめ十会場で、戦車・大型輸送機・対戦車ヘリまで動員したこの「訓練」は、石原の「三國人発言」や「市街戦としてやる」という発言に見られるように、「防災」というよりも「治安出動訓練」としての性格を全面に押し出したものであり、断じて認めることはできない。新ガイドライン情勢のなかで、東京都知事が政府を引き込み、労働者を動員して進める戦争準備にむけたファシスト的突進を許してはならない。

九月三日当日は、東京芝公園において、約二千名が結集して「多民族共生社会の防災を考える九・三集会」が開催され、自衛隊の治安出動と石原の人種差別発言に反対の意志を明らかにした。動労千葉は四十名が参加した。

集会は、呼びかけ人の辛淑玉さんの「石原の外国人を犯罪者呼ばわりは許せない」という発言をはじめ、社民党など各政党や、都職労の労働者などの発言に続いて、午前中各会場で監視行動を闘つてきた各団体から報告を受けた。

報告では、各会場とも監視行動を排除するなかで、石原はジープや戦車に乗り「気分は三軍の長」と新聞に書かれるほど治安出動訓練を鮮明にした内容であつた。

つづいて外国人を多数組織する組合や在日外国人、阪神淡路大震災での教訓などが発言された、最後に「自衛隊が自治体などを指揮統制して戒厳令状況をつくりだす状況は違憲だ」とする集会アピールを採択した。呼びかけ人の宮崎学さんの石原NOを民衆の意志として確認しようという閉会あいさつで集会は終了した。その後芝公園から新橋銀座、東京駅を経て、常盤橋公園までデモを闘いぬいた。